

## しんまちだよりネットワーク版

## 🍊オレンジサロン(認知症家族介護者教室・懇談会) 報告

1月28日に認知症の家族を介護されている方や、認知症に関心のある方たちの交流の場として、第5回目のオレンジサロンが開催されました。その一部をご紹介します。

## よりそいクリニック 青柳医師のミニ講話

## 今回のテーマは「症状への対応②」

前回の青柳先生の講話で、本人が落ち着かない様子の時には、話をそらしたり、本人の言うことに話を合わせたりする方法があるとお話がありましたが、参加者から「本人に嘘をつくことに抵抗がある。」という意見があったとのこと。

そのことに対して、青柳先生からは、「真実を伝えることで本人を傷つけてしまうことがあり、優しい嘘がその人を守ることもある。」との説明がありました。併せて「最終的に何を選ぶかは自分。嘘を言うことに抵抗がある人は、ただ相手の話を聞くという対応でもよいのではないか。」と、重ねてアドバイスがありました。

以下、症状への対応についての青柳先生のお話をQ&Aでまとめました。

## Q: 環境で気を付けることは?

A: 認知症は環境にも影響を受ける。大きな声、テレビの音、まぶしさ、動くもの、服の材質、服のタグなど様々なものが刺激となり、症状の悪化につながることもある。逆に刺激がなさすぎる環境(静かすぎる、孤立している、暗すぎる)でも症状が落ち着かなくなることもある。そのため、本人を隔離したり、一人にしておくことも望ましくない。

## Q: デイサービスに行く日の朝に、着替えを嫌がって困る。

A: デイサービスの前日に、外に出かけても違和感のない部屋着で、寝るのに支障がないもの(スウェットの上下など)に着替えておく。“夜はパジャマを着る”という固定観念にとらわれず、発想の転換ができるとうい。

## Q: 物盗られ妄想のターゲットになっている。どうすればよいか?

A: お世話をしている人が、ターゲットになりやすい。ターゲットになった人は、その人を一番お世話していると自信を持つと良い。「あなたは間違っている。」と正論で話すのではなく、おおげさに心配してみたり、一緒にさがしてみる。一緒に探すうちに、その人がどこに大事なものを置くのか、その傾向がわかることもある。

## Q: 症状が進行しており、心配している。本人に認知症の診断名を伝えた方がよいか?

A: 病名を伝えることが解決につながる訳ではない。早めに地域包括支援センターに相談に行き適切なサービスなどを調整し、本人を支えてくれる支援者を増やしていくことが大事。

## ✿青柳先生からご家族にむけたメッセージ✿

認知症の良い治療、良いケアには一種の『諦め』も必要。というのは、認知症は治らない病 気であり、長期間のケアが必要であり、ケアの先に死と向かい合うことにもなるから。苦しい時つらい時に、「何とかしなくては」とさらに辛くなる。視点を変えてみることも必要。ご家族の心がいっぱいになりそうな時には、主治医やケアマネジャー、地域包括支援センターにご相談ください!



次回のオレンジサロンは3/25(土) 14:00から、会場は新町文化センター会議室で実施予定です。青柳先生のミニ講話のテーマは「認知症予防」です。“認知症の情報が知りたい” “同じ立場の人と話したい”方は、ぜひご参加ください。申し込み窓口は包括しんまちです。チラシの裏面をご確認ください◎

地域包括支援センターしんまち TEL042-340-5060 FAX042-340-5622

e-mail: [sinmachi-kg@t-kenseikai.jp](mailto:sinmachi-kg@t-kenseikai.jp) 認知症地域支援推進員 山口

2023年 3月 1日発行

ネットワーク担当 野中